

山口に中間貯蔵施設検討

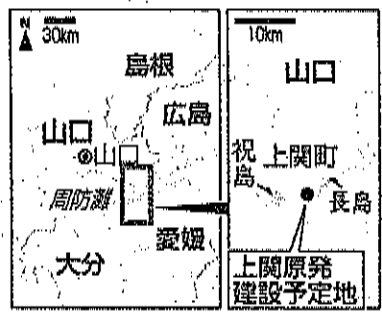
中国電、原発計画の上関

中国電力が上関原発の建設を計画する山口県上関町で、使用済み核燃料を一時保管する中間貯蔵施設の建設を検討していることが1日、町などへの取材で分かった。中国電の担当者が2日にも町を訪れ、建設が可能か調査する方針を伝える。

きょうにも町伝達、調査へ

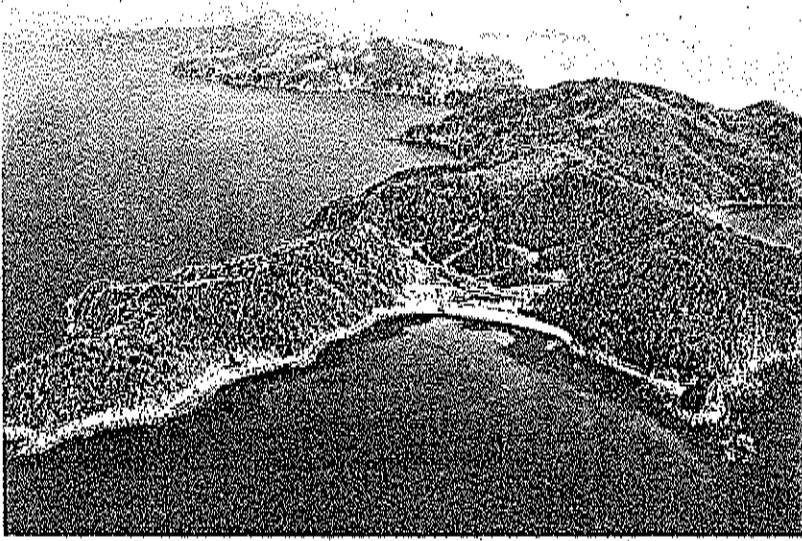
東京電力福島第1原発事故の発生や、推進派と反対派の対立などから上関原発計画はほとんど進んでおらず、町などによると、西替夫町長が中国電側に代替の

地域振興策を要望していた。青森県六ヶ所村にある日本原燃の使用済み核燃料再処理工場は稼働が遅れており、使用済み燃料の扱いについて電力各社に対応を迫



山口県上関町の長島。中央が中国電力上関原発の建設予定地＝3月

られている。上関原発は1982年に町が誘致を表明。出力137万3千瓩の改良型沸騰水型軽水炉2基を建設する計画で、2009年に準備工



事が始まったが、11年の福島第1原発事故を受け中断している。中国電は、松江市で島根原発2、3号機を運用。2号

機は島根県の丸山達也知事が22年6月、再稼働への同意を表明した。中国電が再稼働に必要な安全対策工事を進めており、24年5月に完

中間貯蔵施設 原発で使い終わった核燃料を再び使用できるように再処理するまでの間、一時保管する施設。青森県六ヶ所村にある日本原燃の使用済み核燃料再処理工場の稼働が遅れる中、原発内の使用済み燃料プールの貯蔵容量にも限界があり、電力各社に対応を迫られている。東京電力と日本原子力発電が出資するリサイクル燃料貯蔵が運営する施設が青森県むつ市にある。

了させる予定だ。3号機は原子力規制委員会の審査中。中間貯蔵施設を巡っては、福井県に対し、施設の県外候補地を23年末までに示すと約束していた関西電力が、使用済み燃料の一部をフランスに搬出して再処理する方針を明らかにしている。